



Introduction

今回の ACADE 見 IC では、国際経済学者の^{じんじなおと}神事直人先生にお話をいただいた。質問は、2022 年春号・夏号で読者のみなさんから募集したものをいくつかピックアップして先生にお答えいただいている。今大きく揺れ動いている世界経済。それを考えるためのヒントがこの記事にはある。是非立ち止まって深く思索してみてください。 (真都)

Keywords：国際経済学 / 国際貿易論 / 日本経済 / 研究者のキャリア / 京都大学

Profile

東北大学文学研究科を修了後、カナダのプリティッシュュコロビア大学で経済学の Ph.D. を取得。2009 年から京都大学経済学研究科准教授。2014 年より現職。

経済学研究科

神事直人教授

01 RESEARCH



国際経済学の研究は、
ときに世界的な政策に影響を与える

——まずは先生の研究内容について教えてください。

専門は国際経済学、特に国際貿易論です。具体的には、貿易や直接投資、自由貿易協定などが知識のスピルオーバー（国際的な伝播のこと。例えば貿易をすることにより、ある国で開発された技術が、意図せず別の国に伝わっていくことなどを表す）にどのような影響を及ぼしているかについて研究を行っています。

——国際経済学とはそもそもどういう学問なのか、研究対象という側面からお話いただけますか？（小麦中毒者 [工・2] さんからの質問）

国際経済学全体としては、国と国との取引と、それに付随するようなさまざまな協定、モノやサービスの移動、それから移民など人の移動も含めて、色々なものを対象としています。

——「国際経済学」と聞くとモノの移動のみが対象になるのかなと思っていたのですが、移民も対象になるのですね。

そうですね。ただ経済学の分野では、

基本的に移民は労働力の移動として捉えます。その点労働力は資本と同様に生産要素と見なすことができるので、生産要素の国際間の移動という意味では、移民と直接投資は同じように分析することになります。しかし、移民は実際には労働をするために移動する人だけではなくて、勉強や結婚など様々な目的を持っている人たちがいるので、それはまたちょっと違うフレームワークで分析しなくちゃいけないという感じです。

——次に、国際経済学の研究手法について教えてください。（小麦中毒者 [工・2] さんからの質問）

国際経済学に限らず経済学の各分野でも同じですけれども、大きく分けて理論分析と実証分析というものがあります。まず理論分析の方は、普通の経済学のモデルに基づいて、モノやサービスの取引、それに付随する貿易政策が企業活動や国際間取引にどのような影響を与えるかというようなことを分析します。一方実証分析は、色々なデータを使って理論的に

導かれた予測について検証したり、理論的に知られていなかったような事実を発見したりするという手法ですね。

——研究の面白さは何ですか？

やはり経済学って実社会と結びついている学問なので、研究成果が色々な形で政策に活かされるとやりがいを感じますね。外国との関係って日本にとって非常に重要なことだと思いますが、そういう中で私たちが国際経済の分野でやっているような研究が、国際的な政策に影響を与えていることがあるんですよ。

Evidence-Based Policy Making (EBPM) という考え方があります。直訳すると“証拠に基づいた政策立案”、つまり経済学や政治学などの研究成果をもとに政策を考えるというアイデアなのですが、日本ではこれがあまり浸透していませんでした。ところが最近では官僚の人たちもEBPMの考え方の重要性を認識してきています。そういう意味で、これからさらに私たちの研究の重要性が増すんじゃないかと考えています。

02 CAREER



今の研究者の道があるのは、
必然ではなく偶然の積み重ねだった

——修士課程まで東北大学文学研究科で学ばれていたそうですが、その後専門を経済学に変えたのはなぜですか？

確かに意外に思われるかもしれませんが、私は東北大学時代、行動科学を学んでいたんですよ。行動科学は現在だと行動経済学が有名だと思いますが、その頃私はそれと非常に近いことをやっていました。例えば、数理モデルや統計分析の手法を使って環境問題や不平等の問題について研究をしていました。そういう意

味で、専門の変更には実はあまり違和感がなかったんです。

東北大学文学部在学中に開発途上国の問題や経済成長に関心を持ちました。そして修士課程入学後、経済学部先生のことで勉強させてもらったんです。修士論文も経済学的な観点で執筆しました。

——その後どうして海外のブリティッシュコロンビア大学に行かれようと思ったんですか？（くらげ [工・2] さんからの質問）

実は修士号を取った後、開発コンサルの仕事をしていたのですが、しばらくして国際機関で働きたいと思うようになりました。ただそのためには普通は海外の大学のPh.D.を持っていないといけないので、海外大学への進学を決めたんです。

ブリティッシュコロンビア大学を選んだ理由は、当時関心を持っていた環境/天然資源経済学の先生が非常に多くいらっしゃったことですね。通常の大学だとそういう先生って1人か2人しかいない

はみだし
すてーじ

半年ぶりのはみだしです。緊張してきました。

⇒これからもどんどんはみだしちゃってください～！（お忙しいのにいっぱいコメントいただき、本当にありがとうございます；編）

（理・5 一様模様）

のですが、この大学には多くの先生がい
らっしゃって、それぞれが「環境」や「天
然資源」の観点から多様な研究をされて
いました。そういうところに行って勉強
したいなと思ったんです。でも、そこで
関心が環境問題から貿易に移りました。
——専門の変更にはどういう経緯があ
ったのでしょうか？ (pHilo [工・1]
さんからの質問)

博士課程での指導教員の先生が Brian
R Copeland という人で、先生の専門が
貿易と環境だったんです。その先生のも
とで研究するうちに、貿易の方に関心を

持つようになりました。
——その後研究者になられたのには
どういう経緯があったのでしょうか？
(富士 [経・3] さん他からの質問)
博士号を取った後、色々な事情があっ
て国際公務員になる道を諦めました。結
局また開発コンサルの仕事を始めたので
すが、実際の業務と研究との間にある考
え方のギャップに悩みました。大学院生
時代は研究において精密さが求められて
いました。やはり学術的な研究って、曖
昧さが無い。経済学では科学的な手法に
基づいて「ここまでのことは言えるけど、

ここから先のことは言えないよね」とい
うように、事実と予測をきちんと区別す
るわけです。でも例えば開発の現場って、
厳密さというよりは「ある政策をやりた
いと思った時に、何をどうすればいいの
か」みたいなところが重視されているの
で、そのこのギャップを強く感じるよう
になったんです。その結果、開発コンサル
の仕事を辞めて大学教員になったという
感じですね。

だからそういう意味では、どこかの時
点で研究者になろうと決めたのではなく
て、結果的にこうなったという感じです。

COLUMN①

国際経済学と他分野とのかわり

Relationships between International Economics and other fields

神事先生は研究の中で様々な分野の先生と交流をされている。今回はその一部をご紹介します。

・政治学

日本から海外への直接投資は非常に多い。トヨタやユニクロ
などの大企業が海外に多くの工場を持っていることから分かる
通りである。でも、海外から日本への直接投資が世界的に見
てかなり少ないのはご存じだろうか。実際日本は他の先進国と
比べると、GDPに占める直接投資の比率が非常に少ない。これ
は一説によると、日本の人々が外資系企業にあまりいい印象を
持っていないからだと言われている。このようなグローバル
化の問題は政治学の研究対象にもなっており、政治学の先生と
の共同研究を通じてこの問題を分析される予定だそうだ。

・機械学習

世はビッグデータ時代に入りました。国際貿易の研究におい
ても、昔と比べると扱うデータの量が多くなってきたという。回
帰分析（結果となる数値と要因となる数値との関係を明らかに
する統計的手法。要因となる数値を「説明変数」、結果となる数
値を「目的変数」と呼び、特に説明変数は複数あることが多い）
を行う際、たくさんのデータの中から何を説明変数として選ぶ
かが非常に難しい問題となってきたので、情報学など理系の先
生と協力しながら、機械学習の知見を活かしてその取捨選択を
行うことも増えてきたそうだ。

03 ECONOMICS



コロナ禍の貿易への影響は、
実はごく短期的なものだった

——コロナ禍が国際貿易・国際経済の
情勢にどんな影響を与えているのかを教
えてください。

これに関しては、ここ2年ぐらいで国
際経済学のみならず様々な分野でたく
さんの研究が行われています。それによ
り色々なことが分かってきていて、例
えば貿易への影響というのは実は割と短期的

だったという研究結果が出ています。
2020年、一番最初の緊急事態宣言が
出た頃というのは貿易がやはり非常に大
きく落ち込みました。例えばロックダ
ウンなどで生産がストップしたことが国際
的な分業にダメージを与えています。具
体的には、中国の工場で作業員の出勤が
できなくなり、部品の製造ができなく

なると、同じ財の生産を担っている他
の国の工場も巻き込んで生産がスト
ップする、みたいなことが発生しまし
た。2020年当時はそのような悪影響が長く
続くかというふうに思われていたの
ですが、実際はそれほどでもなかった。
貿易そのものはすぐに回復したんです
よね。ただ国際経済にとって一番ダメージ

はみだし
すてーじ

秋号のクロスワードで、ウィリアム殿下が皇太子になったのは9月に入ってからだ気づいて少し迷いました。

(理・5 フィリップ殿下も5文字の名前で2文字目がイ、3文字目がリ！)

⇒クロスを作ってるちょうどその時に皇太子が変わってあたふたしました

(今年は本当に激動の1年だった；編)

はじめてでもわかる経済学～比較優位の理論～

Economics for Beginners ～ The Theory of “Comparative Advantage” ～

・比較優位の理論の概要

2カ国を比べた時に、それぞれが相対的に得意な産業で重点的に生産を行うと、双方が利益を得られる国際分業が成立する。

・具体例で考えてみよう

A国とB国の2つの国を考える。両国では自動車産業と稲作を行っている。各国が1カ月に生産できる量は表1の通り；

表1		
A国	2,000台	5,000t
B国	1,500台	2,000t

以下、貿易をしない場合とする場合に分けて考察していく。

(I) 貿易をしない場合

各国は1カ月の半分を自動車、もう半分を米の生産に費やす。このとき各国が1カ月に実際に生産できる(=消費できる)量は表2の通り；

表2		
A国	1,000台	2,500t
B国	750台	1,000t

(II) 貿易をする場合

ここで表1を参照してほしい。A国が米の生産を追加的に1t増やしたときに、諦めなくてはならない自動車の生産台数は $2,000/5,000=2/5$ 台である。これを米の生産の**機会費用**と呼ぶ。同じように機会費用を求めると表3の通り；

表3		
A国	米 5/2t	自動車 2/5台
B国	米 4/3t	自動車 3/4台

A国は米1tあたりの機会費用がB国より安く、B国は自動車1台あたりの機会費用がA国より安い。このとき「**A国は米の生産に比較優位を持ち、B国は自動車の生産に比較優位を持つ**」という。経済学の理論では、各国は自国が比較優位を持つ産業で重点的に生産を行うことで、効率的な国際分業が成立するとされている。

実際に考えてみよう。A国が米の生産に、B国が自動車の生産に重点を置くとする。この時1カ月に実際に生産する量は表4の通り；

表4		
A国	400台	4,000t
B国	1,500台	0t

このとき貿易を行ってA国からB国に米を1,250t送り、B国からA国に自動車を700台送ると、各国が1カ月に実際に消費できる量は表5の通り(カッコ内の数字は、取引をしない場合に消費できる量(表2参照)がどれだけ増加したかを示す)；

表5		
A国	1,100台 (+100台)	2,750t (+250t)
B国	800台 (+50台)	1,250t (+250t)

このように、各国が比較優位を持つ産業で重点的に生産を行い貿易をすることで、全体で実際に消費できる量が増加し、双方が利益を得られる。このことから、たとえ一方の国がどちらの産業においても生産能力が劣っている場合であっても、国際分業をする余地はあるということが言える。

・「使える」経済学

神事先生によるとこれは国際貿易に限った話ではなく、日常生活においても使えるアイデアだという。例えばサークルでの役割分担を考えてみよう。あるサークルに、なんでもそつなくこなせるデキる人と、不器用で何をしても下手な人がいるとする。このときサークルの全ての仕事をデキる人に任せればいいのかというとそういうわけではない。比較優位の考え方をを使うと、不器用な人がデキる人よりも相対的に得意なものを見つけ、そこを不器用な人の仕事とすることで、より効率的に仕事が進む可能性を示唆してくれる。

このように、経済学のアイデアは様々なことに応用できる可能性を秘めている。他にも「限界効用」や「外部性」などのアイデアも面白い考え方だ。ぜひ調べてみてほしい。



日本は少子高齢化の進行にともない、経済を縮小するか、それを拒むかの選択を迫られている

ったのは、国際間の人の移動が長い間ストップしてしまっただけです。特にビジネス目的の出張ができなくなったことが相当に悪影響を与えましたね。オンライン会議などを使って代替がなされるケースもありましたが、それでも大きな傷跡を残したと思います。

ですが近頃は世界的な制限緩和に伴ってほとんど元の状態に戻ってきているので、今後はそれほど大きな影響はないんじゃないかと思えます。

——日本経済を高度経済成長期やバブルの頃のように戻すのは現実的ではないと思いますが、今後日本経済が目指すべき方向について教えてください。(による [職] さんからの質問)

これ難しいな(笑) なかなか答えにくいですが、日本の場合だとやはり少子高齢化、それに伴う人口減少の問題は非常に大きいですね。この問題にどう対処していくかが非常に重要だと思います。

人口の減少に合わせて経済自体を縮小して、その中でできることをやればいい

というふうに考えるならば、多分普通の小国になっていきます。そういう選択も1つですが、それじゃいけないと思うのであれば、何か大きな変革をやらなくちゃいけません。例えば海外から人が移住して来るようにして、経済を活性化するとか。少子高齢化はやはり抜本的な対策をしないとすぐに変わるものではないので、何かしら大きな決断をしないといけなくなると思えます。そこを踏まえたくて、経済を縮小するか、それを拒むか、どちらかを選ばなくてはなりません。

とにかく今の状態を放っておいたら、ほぼ確実にどんどん貧しくなっていくんですよ。それに抗って一定の生活水準を維持したいと思うのであれば、やはり1つの方策としては外国からの人々、それから知識を積極的に受け入れていくことをやらないと多分駄目だと思います。

——人口減少を放っておくと、具体的にどういうメカニズムで日本は小国になっていくのでしょうか？

例えば以前は日本でモノを作ってそれ

を輸出することで経済が著しく発展していきましたが、そういうことができなくなります。加えて新しいアイデアもあまり生まれなくなっていくので、新しい産業が成長しにくくなります。それによって、他の国の経済は成長しているのに日本ではそれほど成長していないという事態になって、それを放っておくと結果として相対的に貧しくなっていきます。

もちろん国内で人口減少を食い止める策を打ち出すのも大事ですが、どちらかと言うと外から人が来てくれるようなことをすべきだと思いますね。新しい人材や知識を活かせれば、また違った形での国の成長の仕方があると思うんです。

——経済学的観点から大学生が意識した方が良いことはありますか？(たぬき [農・1] さんからの質問)

自分に対する投資です。特に長期的な視点での投資。最近は短期的な利益にばかりに目がいきがちなんですが、実は重要なのは10年後・20年後の自分がどうなっているか考えて、その上でどうい

COLUMN③

神事先生おすすめの経済学の本

Economics Books recommended by Jinji sensei



『経済学思考のセンス お金がない人を助けるには』

著者：大竹文雄 出版社：中公新書
(吉田南総合図書館と大学院経済学研究科・経済学部図書室の蔵書にあります)

経済学の考え方を分かりやすく紹介する本。「イケ男は結婚しているのか?」「賞金とプロゴルファーのやる気」など、とっつきやすいテーマを経済学の見方から論じており、初学者でも楽しめる。



『自由貿易はなぜ必要なのか』

著者：椋寛 出版社：有斐閣
(附属図書館や吉田南総合図書館などの蔵書にあります)

自由貿易の是非について考察している本。貿易赤字や企業の海外進出、貿易の自由化など国際経済学上の重要キーワードが平易な言葉で説明されている。この記事で国際貿易・国際経済に興味を持った方はぜひ読んでほしい。

はみだし
すてーじ

友人がくれたエコバック。よく見るとハリネズミが"give me a big hug" っていう柄だった。
⇒抱きしめたら大変なことになりますね

(文・2 週末は歯医者)
(でも可愛かったらオッケー! ……多分!!; 編)

うことに今時間を使うべきかを考えることなんです。やはり長期的なりターンなんてなかなか意識しにくいし、そういう投資はすぐには効果が出ないものなので継続的にやらなくちゃいけないから難しい。ですが短期的な視点ではなくて、長期的な視点で自分への投資を考えてほしいと思います。長期的視点というのは人の投資の観点から非常に重要ですので。——最近、国際貿易や国際経済について関心をお持ちのニュースがありましたらお願いします。

トランプ政権が出てくる前、つまり

2016年ぐらいまでは、各国が積極的に地域貿易協定を結ぶなどして、世界的に貿易自由化を推し進めていました。色々な国が色々なところに生産ネットワークを築いて、その恩恵をみんなで受けていたんです。発展途上国も例外ではありません。昔は途上国も自分の国の中で産業を発達させないと先進国に太刀打ちできなかったので、非常に大変でした。ところが自由貿易が広まるにつれて、必ずしも国内で産業を育てなくても、多国籍企業がその生産拠点の一部を自分の国に立地してくれれば、うまい具合に生産ネ

ットワークに組み込まれて、それによって国内の産業が育つという形になってきていました。このようにして最終的に先進国も途上国もみんな恩恵を受けられていたわけです。

しかし最近米中貿易戦争の勃発やウクライナ情勢の緊迫化などがあり、国際的な生産ネットワークの存続が難しくなりました。先ほど言った恩恵も失われつつあります。その影響はまわりまわって私たち消費者に返ってくるのですが、その影響がどのようなものになるのかすごく気になる場所ですね。

04 CONCLUSION



京大という恵まれた環境で、大学生の時にしかできないことをいっぱいやってほしい

——先生からご覧になった京大の魅力は何ですか？（五穀豊穡 [法・院] さんからの質問）

何といっても、学生の皆さんにしても教員にしても全国から優秀な人たちが集まってくることでですね。もちろん自由な校風なんか魅力的ではありますが、それをさておいてもやはり優秀な人たちが集まってくるというのが最大の魅力でしょう。そういう人たちと普段から接することができるのは非常に恵まれている環境ですし、素晴らしいですね。

——他大学と比べた時の京大の強みは何だと思えますか？（へふ [医・3] さんからの質問）

どの大学と比べるかによります。例えば東大と比べてみましょうか。やはり大きいのは東京から離れていることですね。私がPh.D.を取ったのはブリティッシュコロンビア大学で、西海岸に位置しています。西海岸の大学って東海岸の大学と比べると、学術的な面白さを重視し

ているんですよ。東海岸の大学は政治の中心都市に近いので、政策志向というか、政策に直結することを研究しようという雰囲気があるのですが、西海岸にはそれがなかった。日本でも同じようなことが言えて、東大をはじめとした関東の大学と比べると、京大は政策への応用というよりは、伝統的に学術的な重要性や意義を追求している気がしますね。そこが非常に良い面であり強みだと思います。

——最後に京大生にメッセージをお願いします。

色々な制約があって難しいとは思いますが、やはり大学生の時にしかできないことをいっぱいやってほしいなと思いますね。例えば貧乏旅行とか。リッチな旅行は社会人になってからいくらでもできるんですよ。でも、泊まる場所も決めないでふらっとどこかへ行くというような旅行って、やはり学生の頃じゃないとできません。自分も大学生時代にそういう経験が色々あるのですが、そうい

うことって将来の財産になります。社会に出てからだとなかなかできないので、ぜひ大学生のうちにやって欲しいです。

あと色々道草を食ってみると良いと思います。私自身様々なことをしてきましたが、何がどこで生きるか分からないので、色々なことをしてみるというのはとても大事だと思いますね。

特にすぐに役立つような知識に限らず、様々な知識を身に付けてほしい。すぐに活かせる知識って、すぐに陳腐化しちゃうんですよ。学生のうちに学んでほしいのは、すぐに役には立たないけど、いつか本質的に何かの役に立つものなんですよ。例えば全学共通科目は何の役に立つんだという声をよく聞きますけれども、今役に立たなくてもいつか何かの役に立つかもしれないし、大学だからこそ勉強できるものでもあるので、ぜひやる気をもって励んでほしいですね。

——貴重なお話をいただきありがとうございます。ありがとうございました。

はみだし
すてーじ

そういえば「顎（あぎと）の巨人」なんていましたね。
→確かにいましたね。『進撃の巨人』が終わってもう1年半以上経ってるのか……

（理・3 理・3）
（時が経つのは早いですがね；編）